

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所時の職員が意見を出し合い、独自の理念を作りあげている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新しく入職した職員に対し、管理者が会議の場や会話の中で理念の説明をしています。職員は理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	エレベーターを降りた所に理念を掲示している為、来所者が必ず目にするようにしている。また、パンフレットを作成し、公民館等の地域の公共の場に配布している。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	展覧会や納涼祭を企画・開催し、地域の方々に来所していただくきっかけをつくっている。近隣の公園等に散歩に出掛ける際、入居者様が近所の方々と挨拶して頂ける関係を築いている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	展覧会や納涼祭の開催時は、民生委員や老人会、婦人会の方々全員に招待状を出し、入居者様との交流を図って頂いている。	○ 推進会議の席で、老人会の会長様より、可能であれば「老人会の会合(カラオケ等)にも顔を出してもらっても良いです。」との言葉を頂いているので、参加させて頂く方向で検討中。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ボランティアを受け入れ、家族の見学等を積極的に受入れている。また、施設のサービス内容を記載したチラシを作成し、近隣の家配布し、支援を必要としている方の力になれるよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議の席で管理者が職員に外部評価の意義を説明し、理解を得ている。章句インは自己評価表に目を通し、業務の見直しを行っており、外部評価で指摘された部分については改善に向けて会議で話し合っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者がグループホーム会議の席で、職員全員の前で、報告する機会を設けている。職員はこの報告に対して、話し合いを行っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行事やイベントをの開催時には、市担当者にも案内を出し、開放をしているが、意見の交換までには至っていない。	○	市担当者と職員・入居者様が交流出来る場を増やしていきたいと考えている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	学ぶ機会には設けていない。	○	職員全員が理解し、支援を必要としている方への情報提供が出来るよう、学ぶ機会を設けていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加した職員が報告書にまとめ、ファイルにしている。会議でも管理者が職員に資料を配布し、目を通すようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書を説明し家族にはしっかり目を通していただいている。疑問点があれば納得いただけるまで説明をし、理解した上で、署名・捺印を頂いている。	料金改定などがある時は、家族会を開催し、改定の経緯等と新料金の根拠まで説明し、署名・捺印を頂いている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の会話の中で、不満や苦情が出た場合は、会議で話し合い、サービスやケアの改善に向けて取り組んでいる。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回入居者様の生活の様子や行事予定などを載せた新聞を作成し、請求書の郵送時に同封して家族に報告している。	金銭管理についても領収書を郵送したり、預かり金の残高が少なくなった時は、報告している。必要であれば預かり金の出納帳を郵送している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時や電話で苦情と受け取れる内容の話が出た場合は、苦情内容記録に記入し、職員が目を通し、改善に向けて話し合いを行っている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者だけで決定するのではなく、全体会議や、グループホーム会議にて、職員からの意見や提案を聞きサービス向上に向け、決定している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	外出レクの時などは、リスクを考慮し、それに見合った職員を確保したり、会議の席で勤務の調整も行っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	働きやすい職場環境にする為、常日頃職員の悩みや意見を聞き対応する努力をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社内外の堅守の参加を促し、職員は積極的に参加している。研修を受けた職員は必ず報告書を作成し、参加出来なかった職員に情報をおとしている。段階に応じた職員研修は事業所単位では立てていない。	○ 段階に応じた研修は本部(埼玉)では計画があるが、一部の職員しか参加できていないのが現状。今後は参加の機会増やして行きたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東毛ブロックの協議会主催の職員研修会に参加し、研修を行うと同時に、情報交換や交流を図っている。しかし、他の施設への訪問をするまでには至っていない。	○ 地域のグループホームへの訪問をし、他の施設の良い部分を参考にして、サービスの質の向上に取り組んで行きたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の不安や悩みに耳を傾け話を聞き、ストレスが軽減できるように努めている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	業務実績を的確に把握する為、定期的に個人の目標を検証する機会を設けている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の相談の頃より、電話や面談時などで、度々御本人の話を傾聴する機会を持ち、理解を深め、ニーズを汲み取り、支援に努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	御家族が不安に思っている事、気がかりな事を聞き、納得して頂けるまで、十分な話し合いを行っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必ずしも入居をを勧めるのではなく、利用を希望する方の状態や家族の意見を聞き、その利用者希望者に合った、サービスが提供出来るように努める。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に何度か施設の見学に来て頂き、既に入居されている方との対話等をして頂き、どんな方々が入所しているのかを、御本人に知って頂く。また、心配を感じる方には、2～3日程、体験で寝泊りをして頂き施設の様子をしって頂く。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	長く生きてきた人生の先輩として、話に耳を傾け、会話を通して、たくさんの知恵を頂いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の状態が良くなった時など、喜びを分かち合っている。今まで生活を共にしてきた御家族の意見は重要であるので、より良いケアの実践を図る為、意見交換を行っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	御家族や入居者様からの話を聞いたり、話している様子を見て、お互いの距離の理解に努め対応している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の友人や親戚など、大切な人達が面会に来られた時、また次も来たいと思って頂けるよう、来よされ易い雰囲気や対応に努める。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ダイニングの席の考慮をして、中の良い人は近くにしたり気の合わない人は席を離すなど対応する。皆で出来るレクをして、入居者様同士が仲を深めてもらえるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用(契約)が終了すると、関係は継続していない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居の際、本人の使用していた家具などを持ち込んで頂いている。	○	家族からより多くの情報(生活歴・家族構成)を頂き、本人の意向に合った暮らし方に添うよう努力していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを行い、入居者様の一人ひとりの状態を把握し、介護計画書より、これまでのサービス内容等が分かるようまとめている。	○	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人記録、バイタル表の記入により、入居者様の状態が把握出来るようにし、職員が常に目を配るようにしている。	○	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1回、グループホーム会議、ユニット会議を行い、職員で話し合い、よりよいケアのあり方について考え、介護計画を作成している。また、面会時など希望を伺い、取り入れている。	○	家族とのコミュニケーションも積極的に行い、連絡を取り、主治医の意見も参考にし、より良いケアが出来るように介護計画を作成していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に介護計画の見直しを行っており、必要であれば家族の方にも意見を頂き、新しい介護計画を作成している。また、主治医からのアドバイスを伺ったりしている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の他、ケアプランの実施、特記事項なども記入し、情報の共有を行っている。また、申し送りノートなどでも共有している。	○	個人別のノートを作り、気付いたこと、最近の様子など細かく記入出来るようにしたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の要望があれば対応し、支援出来るよう努力している。	○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議、行事やイベントを行い、地域との関わりを持ち、支援している。	○	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望があれば、マッサージ鍼灸の先生に来て頂き、治療を行えるよう支援している。	○	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	以前、権利擁護利用の方がいた時は社会福祉協議会との連携を図っていた。現在は生年後見人に移行した為、権利擁護の対象の方はいません。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回、定期的な診察をしてくださるかかりつけ医がおり、家族からの希望等があれば、相談し適切な医療を受ける事が出来る。また、入居者様の急な発熱などの際、往診等も行ってくださる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	相談・支持や助言を得られる医師がいる。	○	
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	相談をすればアドバイスや助言が得られる看護職員が、併設の通所介護や短期入所生活介護に勤務している。	○	
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中毎日洗濯物を預かり行き、その都度看護師に状態を確認するようにしている。また、施設側として、どのような状態に落ち着かれたら帰ホームが可能かを医師に説明をしている。	○	
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	普段から些細な変化に対しても、家族へ報告している。	○	終末期ケアの体制が整っていない為、施設での対応が困難になる事が必ずある。その際、家族や本人が焦る事が無いよう、早い段階から、施設での状態の変化とそれに対し、職員がどう取り組んでいるかを報告している。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在は重度の方の入居は無いが、かかりつけ医に助言を頂き、今後予想される変化に備え、生活環境を整えたり、他の施設の情報の提供を行っている。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	介護サマリーの作成、施設で医療的な協力を得ていた医師への情報提供書の作成を依頼するなど、住み替え後、本人及び関係者が戸惑うことが無いように支援している。	○	



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に一人ひとりの存在を尊重し、敬うようにしている。個人情報の管理については、鍵の掛かる引き出しに保管し施錠を徹底している。	○	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者にあったケアの方向性をアセスメントやカンファレンスなどで導き、本人の意思を踏まえるよう努めている。	○	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のそれぞれのペースを大事にし、自由に過ごして頂いている。	○	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容室にお連れする事までは出来ていないが、定期的に来所する馴染みの訪問理容師が2名いるので、入居者様好みを把握して頂いている。	○	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食の準備など、利用者様と一緒に準備して頂いている。出来る入居者様には後片付けもお願いしている。	○	食事の摂取量が少ない入居者様にも楽しんで頂けるよう、職員で意見を出し合い楽しみの場になるよう努力している。(2ヶ月に1回調理レクの実施)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	他の入居者様との係りや、病気の面から希望する物を全て提供できる状態では無い。		主治医の意見を踏まえ、可能であれば好みのものを提供し、日常的のもっと楽しめるようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	なるべくトイレでの排尿をして頂く為に、入居者様にあったケア、トイレ誘導を行っている。		今まで軽失禁パット使用していた入居者様が失禁も減り、汚れも無い事が多くなってきたので、パットを外し、布パンツに戻して使用して頂いている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	家庭生活では、夕方から入浴をされている方が多かったので、時間帯は夕方から夜食前後に設定している。入りたくない方には、無理に勧めずその日の状態に合わせて支援している。		テレビを観ていたり、拒否をしたりする入居者様には、時間をずらし再度声を掛け、入浴をして頂いている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	良眠して頂けるよう、声掛けや見守りを行っている。	○	夜間帯に眠りの浅い方には、極力日中に活発な活動が出来るよう、レクの参加等を行い、生活サイクルの改善等の支援を行う。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	レクレーションなどでは入居者様に合っている物を提供して、外食レクなど行っている。		掃除の際、ご本人が出来る事、得意な事を職員が把握し、入居中担当や役割を持ちながら生活が送れるよう支援している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は事業所で預っている。		金銭を持たないと不安になる入居者様には、家族と協議し、数千円の単位で、本人が所持する場合もある。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や外出などを取り入れ、屋外に出る機会を持つよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	1ヶ月に1回は計画をたて、外食や外出が出来るよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今のところは入居者様や家族から、このような要望は無いが、今後このような要望があれば支援していきたい。	○	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族等の訪問時は挨拶・礼儀などに十分に気を付け、笑顔で明るく接している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	身体拘束廃止に関するシンポジウムに参加した職員が、他の職員へ研修報告書を用い、情報を伝え、職員の共有すべき事としている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は施錠する事の弊害を理解しているが、安全面を考慮し、入り口、エレベーターのみ施錠している。(窓ガラスには、転落防止の為、ストッパーが掛かっている)		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個人のプライバシーを尊重しつつも、入居者の傍に寄り添ったり、見守ることで、安全面に対し、十分な配慮を行っている。	○	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみ、カッターなどは机の引出しにしまっておき、施錠し保管してある。包丁や洗剤などは、入居者様の手の届かない高い位置の棚にしまっておくなどして危険を防いでいる。		入居者様の中には、レク以外に、針仕事などをする方がおり、こういった方に対しては、はさみ等の貸し出しもしている。使用後は返却を促し、誤って他の入居者様が怪我をしないよう努めている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告書・業務報告書の記入を徹底し、普段から他の職員が閲覧出来るようにしている。また、グループホーム会議等で読み上げ職員	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署に依頼し、施設にて救命救急の講習を実施しておりますが、最近入職した職員は受講していません。	○	新しい職員が増えた為、再度講習の機会を設ける必要があると認識しており、消防への依頼を検討中。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練等は決められた時期に行ってきたが、高層にある施設の為、屋外までの避難までは出来ておらず、各ユニット毎の救助用窓(はしご車が設置する場所)までとなっている。	○	地域住民とは救援時に来て頂けるまでの連携は図れていないので、今後の早い段階で改善すべき課題として取り組んでいきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒やふらつき、ヒヤリハットや業務報告書に記載する内容は、極力家族への報告すべきものとし、同様の事が起こらないように注意する事をお伝えしている。	○	家族にも入居者様の施設内での状態理解して頂く努力をしている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段からのバイタルや食事摂取の記録を基に、些細な異変に気付いた際は、かかり付け医や看護師に状態を伝え、指示を受ける等の対応を取っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者様の処方箋をファイルにまとめ、職員は薬の理解に努めている。		入居者様の健康上の状態によって服薬している薬を継続しても良い物かどうか、という事に気付く努力をし、そうした際は直ちに医師や薬剤師に相談し、服薬の管理を行ってきた。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日排泄チェックを行い、便秘気味の入居者様にはヨーグルトなどの乳製品を摂取して頂いている		かかり付け医より、運動不足が原因と診断された場合には、職員が話し合い、体を動かす為のレク等を検討し実践している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自力で口腔ケアが行える入居者様に対しては、声掛けにて促し、自力でケアが困難な方に対しては、職員が洗面台まで誘導し、ハブラシを持って頂き、ケアを促している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表(イン・アウト表を含む)活用し、水分摂取が足りていない入居者様に対しては水分摂取を促しように努めている。		半年に1回、かかり付け医による採血検査を行い、栄養摂取が不足気味の方に対しては、食事形態を工夫し、食べやすい物を提供したり、栄養補助ドリンク等を用い、改善に努めている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対応マニュアルを作成し、職員が感染症に対しての対応策を検討し実践している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	キッチンには毎日アルコール洗剤で、きれいにし、調理器具についても消毒し衛生の保持している。		食材の購入は以前から週に2回買出しに出掛け、出来るだけ新鮮な食材を使い調理に当たっている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	敷地内に花壇を設置し、花や野菜を栽培し、家庭的な環境を演出している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダイニングなど共用スペース入居者全員が楽しむ場所と認識し、テレビの音量に注意し、誰も観ていないようであれば消し、入居者同士の会話の妨げにならないようにしている。	○	季節を理解して頂く為に、入居者様にもしっかりと見て頂けるよう大きめなカレンダーや、季節に応じた装飾等を壁に張ったりしている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングにはソファがあり、ここに腰を下ろし、入居者様同士が語りあったりしている。また、エレベーターホールでは、一人で日光浴を楽しまれる姿を良く見かけたりもする。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	入居時に使い慣れた家具等の持ち込みをして頂き、 入居者様に合わせた居室作りに努めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	毎日必ず換気をおこなっている。温度調整は職員が 行っている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	廊下・トイレには手摺りが設置してあり、入居者はこ の手摺りを利用し、歩行して頂いている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	洗濯物を畳んで頂いたり、食器を洗って頂く。生活 に張りを持って戴く。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	敷地内の花壇を利用し、花や野菜などの栽培を行っ ている。		

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
		○	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

○入居者様とのコミュニケーションを大切にし、職員一人ひとりが笑顔で接している。

○入居者様の思いを受止め、気持ちが穏やかになるような生活が送れるよう、温かい環境作りに努めている。